

つつじ類

「つつじ類」には「アザレア」「おおむらさき」「くるめつつじ」「さつき」「しゃくなげ」が含まれる。

———— 発病・加害時期
 ===== 発病・加害最盛期

作型・病虫害名	月											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
もち病					=====			————				
褐斑病								————	————	————		
ツツジゲンバイ												
コガネムシ類								————	————	————		
ベニモンアオリンガ								=====	=====	=====		

もち病

留意事項

- SDHI剤 (7) は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 被害葉はほ場外に持ち出し処分する。
- 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を散布する。
 - ・ [Zボルドー M1](#) 【500倍 —/—】
 - ・ [バシタック水和剤75](#) (7) 【1000倍 発病初期/8回】

褐斑病

防除方法

- 被害葉はほ場外に持ち出し処分する。
- 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダコニール1000 M5](#) 【1000倍 —/6回】
- 発病したら、下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トップジンM水和剤](#) (1) 【1000~1500倍 発病初期/5回】

ツツジゲンバイ

留意事項

- 幼虫・成虫とも葉裏に生息しているので、薬液散布の際は葉裏を中心に散布する。

防除方法

- 発生を認めたら、下記の薬剤を施用する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) (3 A) 【2000倍 —/6回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) (4 A) 【2000倍 発生初期/5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [オルトラン水和剤](#) 1 B 【1500倍 発生初期／5回】
- ・ [ガゼット粒剤](#) 劇 1 A
【10g／株(但し、18kg/10aまで) 株元散布 生育期／1回】
- ・ [モスピラン粒剤](#) 4 A 【3～6kg／10a 株元散布 発生初期／1回】
- ・ [アドマイヤー1粒剤](#) 4 A 【6kg／10a 株元散布 発生初期／5回】

コガネムシ類

防除方法

- 1 苗木の定植時に幼虫が生息している場合には、下記の薬剤を施用し、土壌とよく混和する。

- ・ [フォース粒剤](#) 劇 3 A
【コガネムシ類幼虫 9kg／10a 全面土壌混和 植付時／1回】
- ・ [アクタラ粒剤5](#) 4 A
【コガネムシ類幼虫 9kg／10a 全面土壌混和 植付時／1回】
【コガネムシ類幼虫 9kg／10a 株元散布 生育期／1回】
- ・ [オンコル粒剤5](#) 1 A
【コガネムシ類幼虫 9kg／10a 全面土壌混和または株元土壌混和 定植時／1回】
【コガネムシ類幼虫 9kg／10a 全面土壌混和または株元土壌混和 生育期／3回】

ベニモンアオリンガ

留意事項

- 1 幼虫が新芽やつぼみに食い入り、内部を食い荒らす。新芽周辺を探しても見つからないことが多い。1匹で多くの芽をかじるので被害の割に虫は少ない。
- 2 翌年のつぼみができる7～8月の発生に注意する。

防除方法

- 1 被害芽はほ場外に持ち出し処分する。
 - 2 新芽のしおれや赤枯れの発生がみられたら、下記の薬剤を散布する。
- ・ [オルトラン液剤](#) 1 B 【250～500倍 発生初期／5回】
 - ・ [チューリサイド水和剤](#) 1 1 A 【1000倍 発生初期／－】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。